

春を待ち 夜風に散るか 白金の

しろがね

二人歩みと 日本橋まで

令和七年一月二十五日

幻想小説家クラブ 大中臣正比呂



日本橋のCOREDO室町を過ぎ、日本銀行までの路地は桜の名所である。其の頃に歩いた人に紹介された人も、また同名だったという記憶は、時に流されて令和の今に辿り着いた。二人の歩みは幻想ではあるまい。松の内を過ぎ、あと十日もすれば節分である。河津桜が咲き始める。春を待つとは、梅、桃、桜と続いてゆく所縁でもある。春よ、来い！